

「精神障害者の退院促進と地域生活を支えるための意見」

今年6月からグループホーム・ケアホーム（GH/CH）を運営し始めましたが、入院者が出るなどで赤字決算が見込まれます。その理由を考えてみました。

ご存知のとおり、精神障害者の地域生活支援は、具合の悪いときには、できるだけ短期間の入院を上手に利用し、地域での生活を維持することが大切だと考えます。

しかし、現在の GH/CH は、入院期間の報酬は病院に訪問したとしても、区分2の場合、通常報酬の3分の1以下となってしまいます。加えてこの「入院時支援特別加算」は3ヶ月の期限付きです。（精神化病院の平均在院日数は約10ヶ月ですよね？）利用者が入院しているからといって、世話人や生活支援員を解雇するわけではなく、雇用は継続されます。その間の人件費は法人の持ち出しになってしまいます。

また、上記のようなケースが続き運営を圧迫すると、経営的には再入院の可能性の少ない人を、選んで入居してもらうようになってしまいかねません。

一方、力のある利用者を単身生活へと移行すると、その間空き部屋が生じてしまいます。

また、千葉県と市町村事業の GH/CH 利用者への家賃補助は、単身生活への移行を躊躇する要因にもなっています。つまり、利用者さんにとっては GH/CH にいる間は出ていた家賃補助が、単身生活に移行すると出なくなってしまうことになるからです。その結果、能力のある人が GH/CH を利用し続け、再入院の可能性の高い支援を必要としている人たちが GH/CH を利用しにくい現状が生まれてきてしまいます。能力のある人たちの GH/CH の滞留は第2の社会的入所となりかねません。

GH/CH を必要としている人たちに、  
決して多いとはいえない GH/CH を利用していただき、  
能力のある利用者は GH/CH を卒業していける、  
有機的なシステムを作るために、以下の提案をいたします。

#### 〈提案〉

GH/CH を必要としている、再発を繰り返しながら地域で暮らすひとたちが、  
GH/CH を利用しやすいものとするために・・・

#### ① 利用者の入院期間に下がった報酬を担保するシステム作り

力のある利用者を GH/CH から卒業できるようにするために

#### ① 家賃補助のあり方を再検討する。

例えば、運営法人に共有スペース分の家賃分を補助していく。

#### ② 利用者が卒業した後の空き部屋の家賃を保証するシステムを作る。

#### ③ 長期入所にならないように、GH/ CH の卒業生が出たときに、成功報酬のようなものを作る。

ちなみに、東京都では通過型 GH の加算制度と空き部屋保証の制度があるそうです。

（グーグルで「東京ホーム連」を検索すると、

「東京都障害者グループホーム等支援事業取扱要領」が載っています。）